



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.3 2005.12



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学リサーチセンターニューズレター

目次

	ページ
● イベント報告	サイバネティクスの視点からのSIMOTへの示唆 2
● 海外活動報告	中国大学訪問 2
	豪州工学アカデミー 30周年記念総会 2
	Annual Meeting of the Decision Sciences Institute 2
● コラム	特許制度とその運用 3
● 学生の目	政府の戦略とイノベーションの大衆化の ポジティブな関係 3
● 最近の動き	3
● 掲載記事紹介	日本経済新聞 「経済教室」 3
● イベント予定	第2回年次国際シンポジウム 4
● 連絡先	4

東京工業大学では、21世紀COEプログラム「インスティテューショナル技術経営学 (SIMOT)」遂行の中核センターとして、「インスティテューショナル技術経営学研究センター (SIMOTリサーチセンター)」を設置いたしました。
同センターの研究内容・活動を、広く内外に知っていただくことを目的に、毎月ニューズレターを刊行しております。

■ イベント報告 ■

サイバネティクスの視点からの SIMOT への示唆 (11月14日(月) 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会 国際問題分科会 11月例会では、モスクワ国立大学助手アレクセイ・スミルノフ氏および同大学助手リリーヤ・ルキャノーヴァ氏による研究報告が行われました。「企業の技術革新のモデリング: ビジネス効率と潜在能力のアセスメント」、「企業の新技術開発への最適投資」との

テーマのこれらの報告では、サイバネティクス (生物と機械における制御と通信を統一的に認識し研究する理論の体系) の視点から、イノベーション創出における最適投資戦略についてのモデル化を行い、ロシアのインスティテューション下における企業データを用いた実証分析が示されました。



■ 海外活動報告 ■

次代を担う学生の確保・訪日懇話 中国大学訪問 (11月17日 - 23日 中国 上海、成都、北京)



SIMOT では、国内外の研究協力拠点との連携による国際的に通用する研究・教育活動を推進するとともに、本領域での指導的役割を果たす実践リーダーの育成を目指しています。事業推進担当者であり、SIMOT の主要専攻のひとつである東工大経営工学専攻長の飯島淳一教授は、経営工学専攻の PR と中国からの優秀な留学生の確保を目的として、上海 (上海復旦大学、上海交通大学)、成都 (電子科学技術大学)、北京 (北京大学、清華大学) を訪問しました。各地で、経営工学関連学科および国際連携担当部署を訪問し、ポスター・案内等を使って専攻での教育・研究内容の説明を実施。将来、国内

内外の企業・研究機関で実践面での指導的な役割を果たせる国際実践リーダーおよび次世代の本領域の先端研究を担う研究者になりうる人材の発掘に努めました。

豪州工学アカデミー30周年記念総会 (11月20、21日 オーストラリア キャンベラ)

豪州工学アカデミーは、英連邦の伝統として、由緒と格式の高さをほこり、産官学への影響力も強く、SIMOT にも高い関心を示しています。今般、30周年記念総会に、センター長の渡辺千仞教授が出席し、日本工学アカデミーの西澤潤一会長の祝辞を述べると共に、産官学の代表者と、SIMOT の取組み等について意見交換を行いました。豪州は、日本の 20 倍の広大な国土故に建国来「距離の暴虐」に泣かされてきました。それが、IT 化を進める原動力になり、IT による「距離の消滅」の優等生になっています。同時に社会・経済・生活様式等のインスティテューションも「共進」を遂げており、SIMOT のモデルを実際に展開しています。今回の訪問で SIMOT に対する先方の関心が異常なほど高かったのもそのようなところにあるのかもしれませんが。

36th Annual Meeting of the Decision Sciences Institute (11月19-22日 米国 サンフランシスコ)



米国サンフランシスコにて、意思決定関連の国際学会 DSI (Decision Sciences Institute) の国際会議が 4 日に渡り開催されました。本会議は、北米のみでなく、中南米、欧州、アジア、大洋州、アフリカなど世界各国から多くの研究者が集まり、20 程のセッションが平行して行われる非常に規模の大きな会議となります。

SIMOT からは汪建ポスドク研究員が参加し、「Planning Manufacturing Strategy in Turbulent Environment」について共同研究報告 (共同研究者: 曹 徳弼 (SIMOT 助教授)、Shane J. Schvaneveldt (Weber State University)) を行うと共に、SIMOT の目的と研究内容を紹介しました。

関連 HP : <http://www.decisionsciences.org>



コラム

特許制度とその運用

SIMOT 研究センター センター員/ 運営委員
東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科教授 佐伯 とも子



特許は、知的財産権の代表的なものであるが、その制度は、今日国際的にほぼ統一されたものとなっている。次は、各国で共通した世界特許1つにまとまればよいではないか、という方向におかれている。けれども、「モノ」は使いようで決まることも多い。制度は統一されていても、その制度をどのように使うか、法律をどのように運用するかで、権利の広狭・強弱、権利行使の難易などが変化するといえる。使われ方、運用のされ方が、日本と諸外国でどのような差異があるのか、同様の法律の下でも、その運用によって、権利を取得・行使する企業はどのような影響を受けるのか。

日本の「和」の精神からすると、広狭・強弱はあるにしても権利はできるだけ皆に満遍なく振り分けられているのがわかりやすく、使いやすい。そのような運用の下で、日本の企業は、特許で保護する発明・技術・を生み出しやすい立場にあるといえるであろうか。



学生の日

政府の戦略とイノベーションの大衆化のポジティブな関係

SIMOT RA 博士課程3年 陳 康



昨年来、私は SIMOT の授業を受け、インスティテューションとイノベーションの関係について学び始めました。私の研究テーマは、「お年寄りが情報技術を利用・学習する際に影響する要因についての研究」なのですが、授業を通じて、インスティテューション、とくに政府の戦略がイノベーションの発展・大衆化にポジティブな影響を持つことを学び、私の研究にもこういった視点が重要であることを理解しました。

私たちは現在、お年寄りの情報技術利用に関して、韓国・香港そして上海の政府と共同研究を行っています。韓国はインターネットや携帯電話を通じた各種経済活動・情報サービスの大衆化を推進する「e-life」運動を展開していますし、香港は、医療システムを中心に、情報化を通じた福祉制度の充実を目指しています。また、上海は、お年寄りにも使いやすい電子政府のあり方について研究を進めています。以上の3地域における研究は、各国のインスティテューションにおける、政府の戦略とイノベーションの大衆化の良好な関係を明らかにするものと思います。



最近の動き

海外出張

渡辺	12月17日～21日	アメリカ（ハワイ 環太平洋化学会議）
	12月24日～1月3日	オーストリア（ウィーン 国際応用システム分析研究所）
矢島	12月15日～19日	アメリカ
曹	12月22日～27日	中国

掲載記事紹介 - 12月2日付日本経済新聞朝刊「経済教室」

12月2日付の日本経済新聞朝刊の「経済教室」欄に、早稲田大学教授であり、SIMOT 特任教授を兼任している平野雅章氏の論稿が掲載されました。IT 投資と組織特性および経営成果の間の関係を独自の組織特性変数「組織IQ」を用いて実証的に分析し、「情報投資の果実を得るためには、高い組織能力を持つ必要がある」という結論を示しています。これは、企業レベルでのインスティテューションである組織文化・能力の視点から、イノベーションとの共進ダイナミズムの解明に迫るものです。

イベント予定

第2回年次国際シンポジウム - イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明

「イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明」とのテーマの下、内外の第一人者を招いた最先端の講演・討論および事業推進担当者による研究報告を2日間にわたり行います。

日時 2005年2月27日(月) 28日(火)

場所 東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール

プログラム

1日目		2日目	
9:30	開会	9:30	開会
9:35	学長挨拶	9:35	基調講演 4
9:45	基調講演 1 ネイサン・ローゼンバーグ (スタンフォード大学名誉教授) 科学とテクノロジー: その因果関係の本質		ジェームズ・C・アベグレン氏 (日本型経営の先駆的研究者) ガイヤの再設計: 新たなシステムと不変の価値
11:00	基調講演 2 ルイス・M・ブランソム (ハーバード大学名誉教授) ハイテク・イノベーションのルーツ: 科学、企業家そして社会経済ネットワーク	10:35	ゼネラルセッション(2) 日本型技術経営 - 無形価値・知的財産・技術
12:15	ランチ - プラウバグ・セッション: インスティテューショナル技術経営学教育	(1)	佐伯とも子 (東工大 イノベーションマネジメント研究科 教授) 日本の医薬特許の運用とその課題
13:45	基調講演 3 藤井照穂 (マイクロソフト PDL 社長) 技術の多国籍マネジメント (仮題)	(2)	蜂谷豊彦 (東工大 経営工学 助教授) 組織資本の測定・評価
15:00	コヒーブレーション	(3)	宮川雅巳 (東工大 経営工学 教授) 基礎技術を製品化する日本の技術
15:15	ゼネラルセッション(1) 国際比較分析 - イノベーションとインスティテューションの共進化ダイナミズム	12:05	ランチ
(1)	渡辺千仍 (東工大 経営工学 教授) イノベーションとインスティテューションの共進化ダイナミズム 比較の視点	13:05	基調講演 5 下村満子 (経済同友会 副代表幹事、元朝日新聞ジャーナリスト) 価値観としての“共進化”と日本的経営そして“ソフトパワー”
(2)	アソウ マルク リュウ (仏印大学哲学部教授、東京大学経済学部客員教授) 未完のプロダクト: フランスにおける知識社会の構築 (日米仏欧比較)	14:05	ゼネラルセッション(3) 日本型技術経営 - インスティテューションとの相互作用
(3)	宮崎久美子 (東工大 イノベーションマネジメント研究科 教授) クリストフ・クリンゲル (同研究科 ホスト・クワイア) アジア諸国におけるセクター・イノベーションシステム: ソフトウェア分野のケース	(1)	伊藤謙治 (東工大 経営工学 教授) 安全文化向上による組織事故のリスク回避
(4)	山崎正勝 (東工大 経営工学 教授) ヤコブ・ベック (東工大 経営工学 助手) 巨大科学及び科学政策 (米ソ比較)	(2)	比嘉邦彦 (東工大 イノベーションマネジメント研究科 教授) テレワークの日本における問題点
(5)	チャラ・グリフィー ブラウン (米ペパー・ダウ大学経営大学院準教授) IT 基盤と知識による企業改革の視点 (米日中比較)	(3)	圓川隆夫 (東工大 経営工学 教授、イノベーションマネジメント研究科長) 日本文化とものづくりの強み、弱み
17:45	閉会	15:35	コヒーブレーション
17:55	レセプション (参加費: 2,000 円)	15:50	ゼネラルセッション(4) 日本型技術経営 - IT 投資と経営成果 経営情報学会協賛 飯島淳一 (東工大 経営工学 教授) 妹尾大 (同助教授) 平野雅章 (同特任教授)
		17:50	閉会

講演者紹介

- ネイサン・ローゼンバーグ教授 : スタンフォード大学名誉教授 (技術経済の権威)
ルイス M. ブランソム教授 : ハーバード大学名誉教授 (「デスパレー」の概念の提唱者)
藤井照穂氏 : マイクロソフト PDL 社長
ジェームス C. アベグレン氏 : MIT, シカゴ大学で教鞭、元上智大学教授 (「日本型経営」の先駆的研究者、“終身雇用”を初めて使用)
下村満子氏 : 経済同友会 副代表幹事、元「朝日ジャーナル」編集長、「朝日新聞編集委員」

皆様には、シンポジウム参加申込用紙を 1 月初旬にお送りさせていただきます。

シンポジウムに関するお問合せは、下記発行元連絡先までお願いします。

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21 世紀 COE プログラム

「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51

東京工業大学社会理工学研究科経営工学専攻内 西 9 号館 208B 号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250 Email: nakane@me.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>

編集者: 菊池 隆